

中国人日本語教師の教師研修における 教授観の変容について

篠崎 摂子

(国際交流基金日本語国際センター)

張 文麗

(西安交通大学)

1. 概要

- 教師研修参加による教師の教授観の変容を、研修参加時のインタビューとジャーナル、研修修了1年後のインタビューから探る。
- 対象：中国の現職大学日本語教師
(北京日本学研究中心在職日本語修士コース参加者)

2. 中国の大学日本語教師

- 教師数約3500人(2003年国際交流基金調査)
- かつては大学日本語科卒業生が中心。
⇒近年は日本研究の学位取得者が増加。
(日本語教育学を専門とするものは少ない)
- ほとんどの教師は教職につく前に日本語教育について学ぶ機会がない。
- 主な教師研修
「大平学校」・北京日本学研究中心(篠崎・曹2006)
日本語国際センター短期研修(2ヶ月)

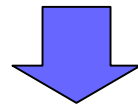
3. コース概要

北京日本学研究中心在職日本語修士コース

- 現職日本語教師向けの修士学位取得（日本語教育）を目的とするコース。（横山2002、篠崎・浜田2005）
- 1年目 日本語教育関連の科目を受講。
⇒教授法・教授理論の獲得
- 2年目 職場復帰、修士論文作成開始。
（集中指導2回）
- 3年目後半 修士論文提出。

4. 研究の概要(1) 研究課題

中国の現職大学日本語教師の教師研修参加



①教授観にどのような変容があるか。

②教授観の変容に影響を与える要素は何か。

4. 研究の概要(2) 調査対象

- 在職修士コース4期生(2004年9月入学)7名。
中国の大学日本語科卒業、年齢30代、
日本語教授歴2~12年。
日本語運用力ACTFL-OPI中級-上~上級-上。
- 今回の分析対象

	教授歴(その他職歴)	教授対象	研修参加歴
A	2年(旅行社14年)	日本語専攻	なし
B	11年(なし)	非専攻	あり(国内半年)

4. 研究の概要(3) データ

① 研修参加時

インタビューⅠ (2004年10-11月、教育実習準備中)

中国語による半構造化インタビュー(30～60分)

ジャーナル (毎月1回提出⇒2004年10-12月のもの)

授業の感想や研究の進捗状況を日本語で記述。

② 研修修了1年後

インタビューⅡ (2006年8月、第2回集中指導時)

中国語による半構造化インタビュー(30～60分)

4. 研究の概要(4)分析

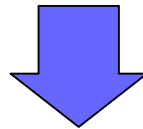
- 教授観の変容

インタビューやジャーナルに現われた
教授行動・意識(の変化)

- 内省モデル(Wallace1991)の利用

5. 分析の結果(1): Aの教授観の変容

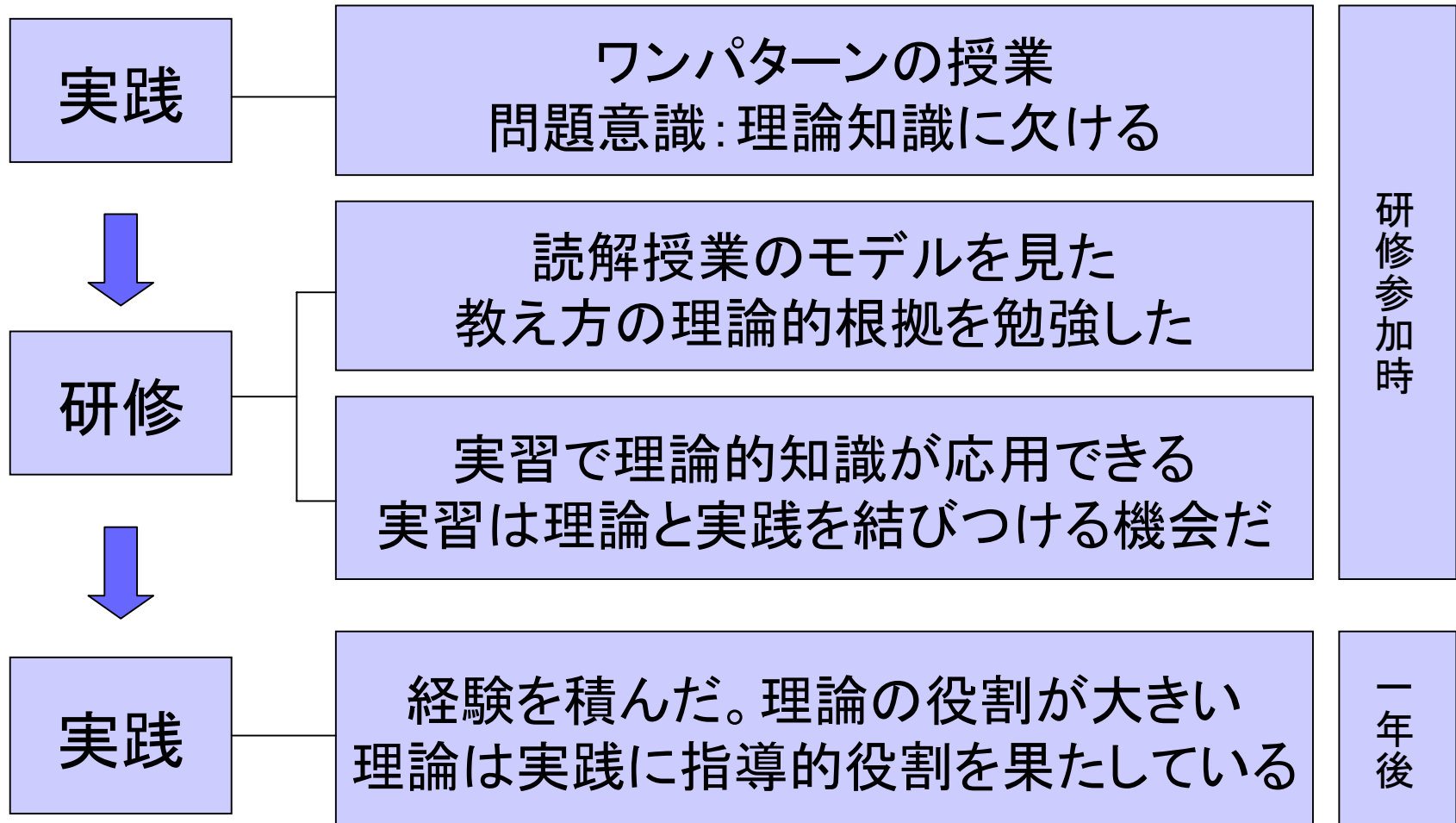
- 単語・文型の一方的な説明、文法中心の読解の教え方をしていることを、問題に感じている。



- 完全な内容中心の教室活動は現実的ではないとしながら、インターアクションの工夫をし、教授内容を選択しているなど、可能な範囲で新しい工夫を取り入れている。

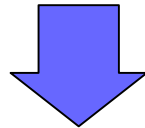
文法中心の教え方に新しい工夫を取り入れる

5. 分析の結果(2): Aの教授観変容の影響要素



5. 分析の結果(3): Bの教授観の変容

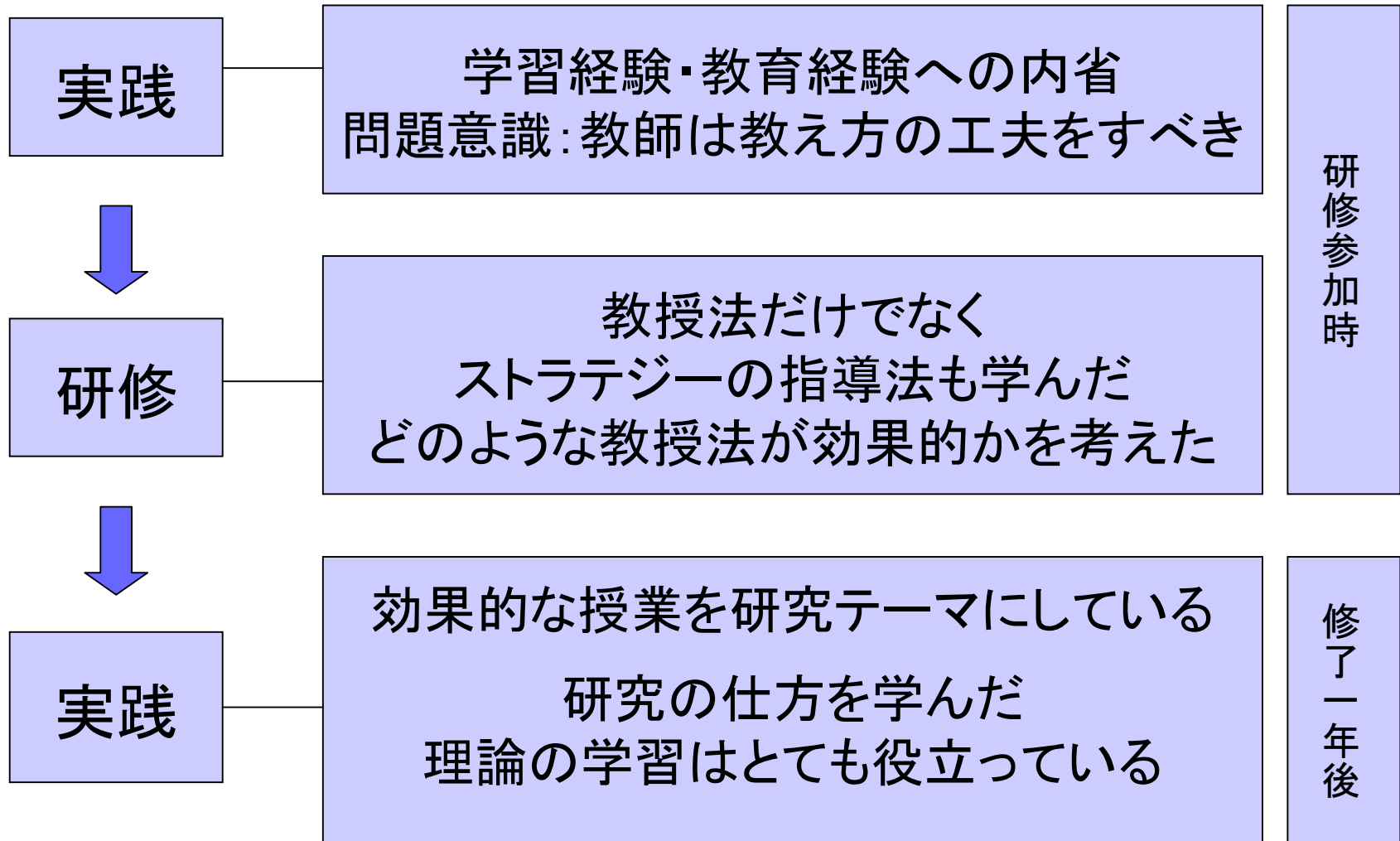
研修で勉強した教え方をやってみた
教師は教え方の工夫をすべき



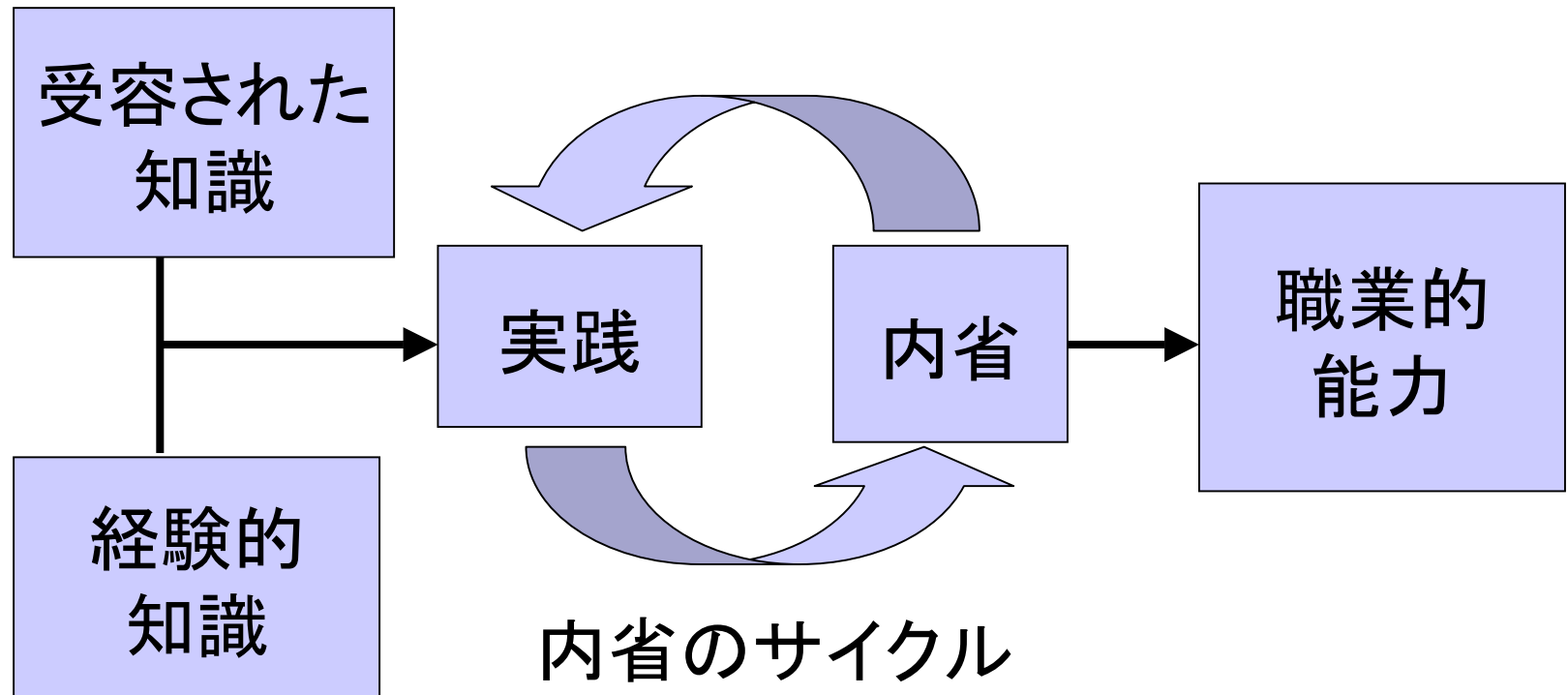
教え方に変化がない
新しい学習法を修士論文のテーマとしている

変容があったのか？

5. 分析の結果(4): Bの教授観変容の影響要素



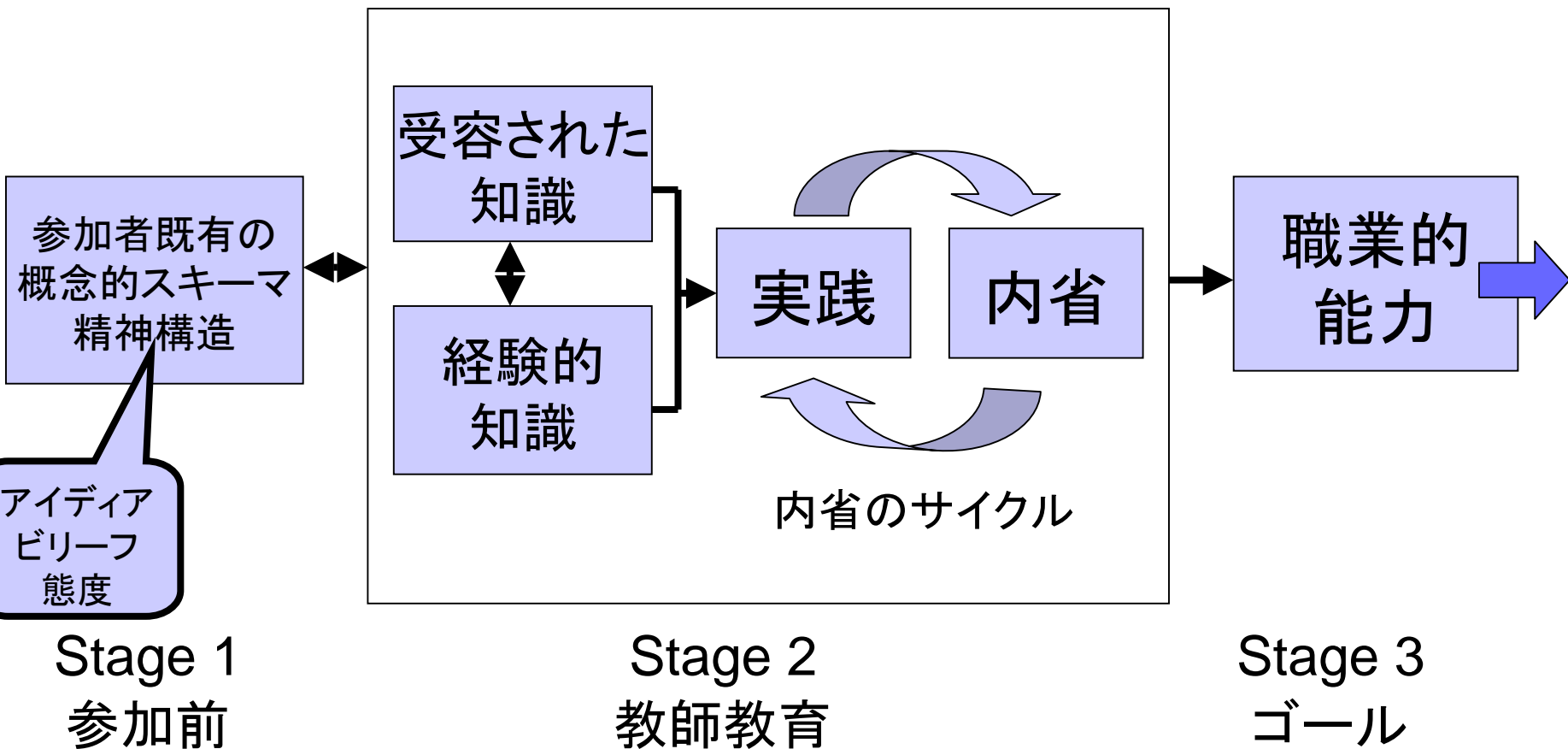
6. 考察(1): 内省モデル(Wallace1991)



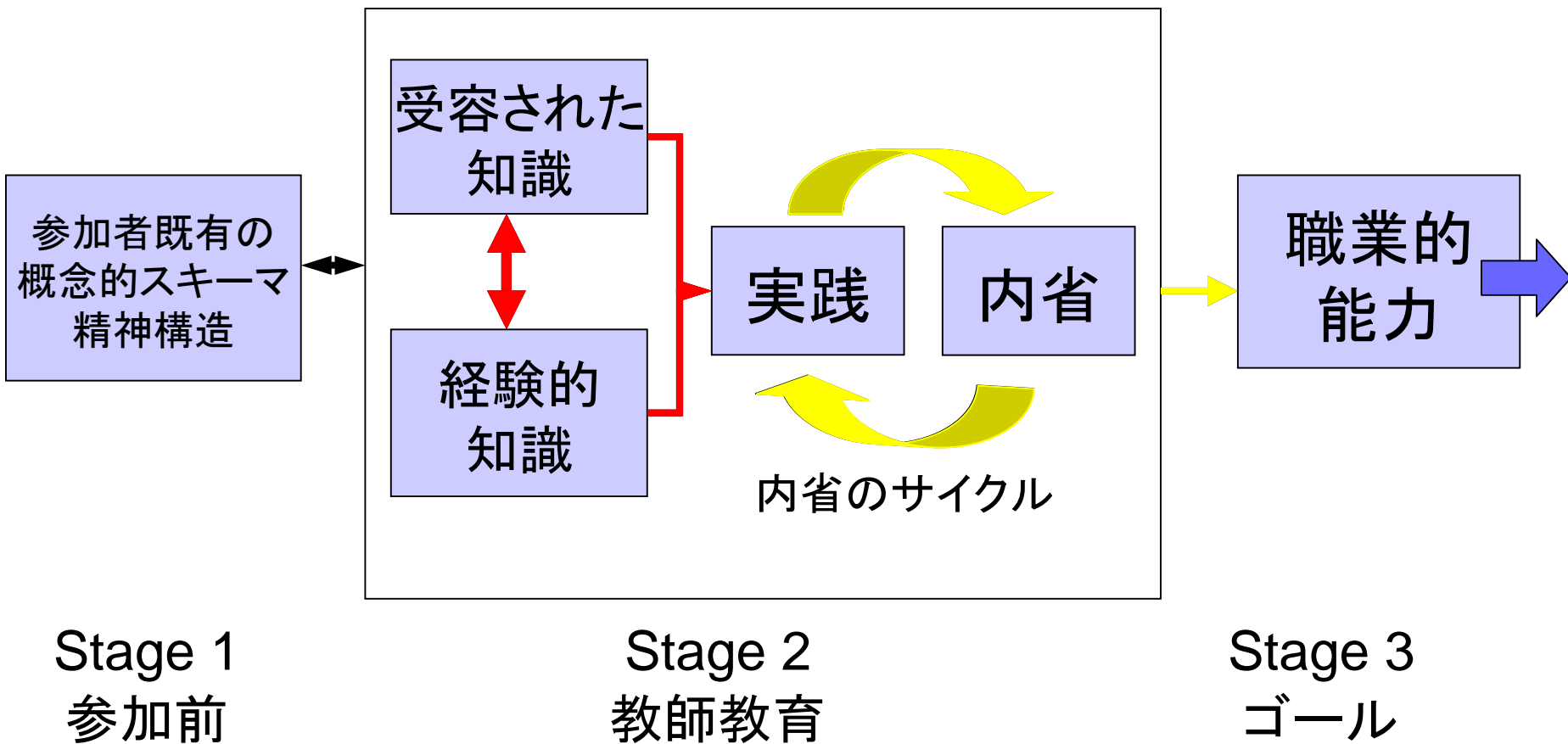
- 訳語は岡崎・岡崎(1997)による

6. 考察(2)

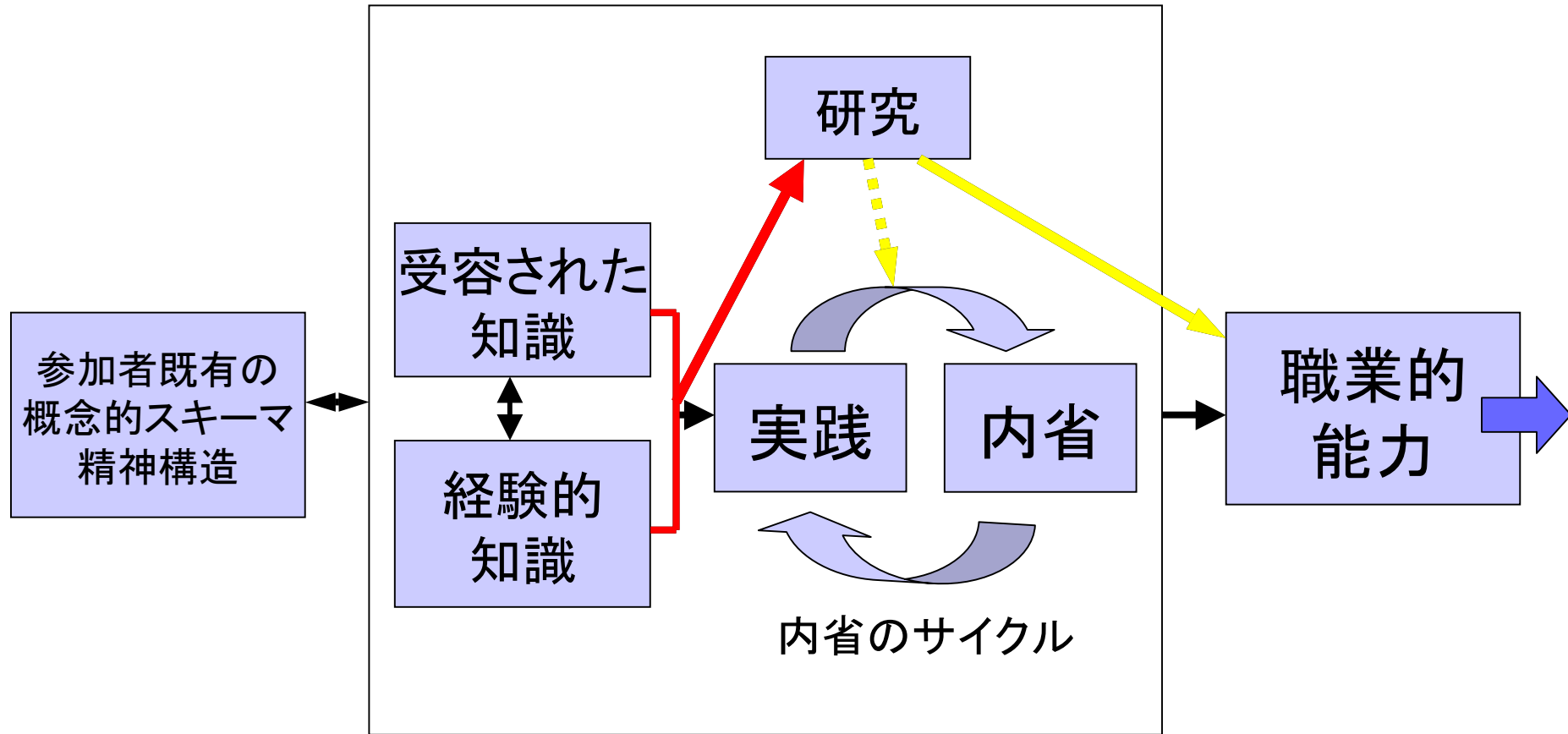
教師教育の内省的実践モデル(Wallace 1991)



6. 考察(3): Aのケース



6. 考察(4): Bのケース



Stage 1
参加前

Stage 2
教師教育

Stage 3
ゴール

6. 考察(5):まとめ

- 教授観の変容

A: 文法中心の教え方に新しい工夫を取り入れる

B: 研究の視点からさらに効果的な教授法を模索

- 教授観の変容に影響を与えた要素

A: 受容された知識(理論)

理論に基づいた実習の体験

} 関連付け

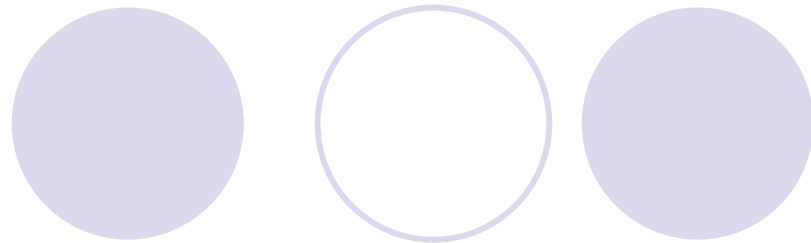
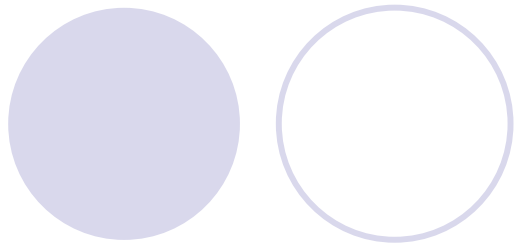
B: 研修参加前の経験

受容された知識(理論)

} 研究への意欲

7. 今後の課題

- 教授観の変容の差は何によるものかについてさらに考察する。
- ほかの研修参加者のデータを分析する。
- 授業観察など他のデータを用いて教授観の変容を多面的に研究する必要がある。



ありがとうございました